



2月号

三木高大

# 自治会新聞

発行 三木市高齢者大学学生自治会  
発行責任者 自治会会長 三木 清  
編集担当者 3年2班 石原 修  
発行日 平成27年2月10日

No. 108

## 大学祭のご案内



第23回大学祭を下記要領で開催します。  
大学祭は一般公開です。皆様お誘い合わせのうえお気軽にお越しください。

2月21日(土) 13時~15時30分 展示部門  
2月22日(日) 9時40分~10時 式典  
10時~15時30分 演技および展示

22日の昼食場所は、2階研修室3と体育館です。

- 一般ご来客の皆様は、研修室3をご利用ください。
- 在校生は、午前の演技終了後に体育館で喫食されますようお願いいたします。
- ご家族や友人を招待されている在校生は、研修室3をご利用ください。

なお、当日の弁当販売は行いませんので、各自でご準備ください。

大学祭実行委員長 3年1班 木場 篁三



【写真は第22回大学祭より】

### 展示部門

研修室1：写真  
 研修室2：短歌 囲碁 クック ゴルフ  
 ラージボール グラウンドゴルフ  
 ターゲットバードゴルフ  
 バドミントン  
 ロビー：書道 水墨画  
 廊下：園芸  
 研修室4：パソコン 大学自治会広報  
 大学院 学友会  
 研修室5：茶道(お茶席)  
 木工室：手芸 匠(木工) OB 能面

1年間の活動成果(作品や活動記録、写真など)を展示します。

### 演技部門

- 1 大道芸..... 10:05~10:25
  - 2 コーラス..... 10:25~11:00
  - 3 カラオケ(1)..... 11:00~11:45
  - 4 太極拳..... 11:45~12:00
- 【昼食休憩 昼食室(体育館・研修室3)】
- 5 詩吟..... 12:40~13:15
  - 6 歌謡アカシア..... 13:15~14:00
  - 7 民謡踊り..... 14:00~14:20
  - 8 カラオケ(2)..... 14:20~15:05
  - 9 社交ダンス..... 15:10~15:25

# 平成27年度高齢者大学生を募集

高齢者大学では、新年度入学生を募集しています。ご近所、お友達、お知り合いの方に大いにPRしていただき、お誘いくださるようお願いいたします。

募集要項及び入学願書は、まなびの郷みずほ、市役所（4階）市民協働課、市民活動センター、市立公民館に置いてあります。 教務主任 井上 達夫

## ◇入学資格

三木市内に住所を有する60歳以上の学習意欲のある方で、学生自治会活動に参加できる人、老人クラブやボランティア活動に参加している人、または3年生終了時までに参加する人。

◇修業年限 4年

◇募集定員 75名（先着順）

## ◇学習講座及び学科

教養課程及び専門課程（園芸、健康福祉、情報、古典、郷土史）

◇費用 入学金 12,000円  
受講料 10,000円（年間）  
自治会費 3,500円（年間）

## ◇入学願書受付

2月3日（火）～2月27日（金）  
郵送も可、持参は火～金曜日の午前9時～午後4時

## ◇問い合わせ

三木市高齢者大学事務局  
（市立まなびの郷みずほ内）

☎88-2550

〒673-0701

三木市細川町瑞穂247-2

## 教養講座を聴講して

講師：兵庫歴史研究会顧問

梅村 伸雄 様

### ☆一の谷合戦と逆落としの崖の所在☆

今回、幼少時に絵本とか漫画等で慣れ親しんできた「源氏と平家の合戦」について800年前の遙かなるいにしへのロマンに浸ることができ、その真実を探る機会を得た。

源氏と平家の戦いで、源義経は「木曾義仲との戦い」「三草山の合戦」「一の谷の合戦」「屋島・壇ノ浦の戦い」で連戦連勝して平家を全滅させたという事実については皆さんご承知の通りである。



【1月13日講座風景】

ここでいう義経とはどういう生き立ちと性格であったのかと私なりに考えてみた結果、  
◇幼少期は不遇の生き立ちであり、31歳という若さで兄の追っ手を受け、平泉で自害している。

◇名前も牛若丸・遮那王・源九郎・九郎判官と変遷。

性格面では、兄頼朝と異なり合戦上手ではあったが、全体を掌握する行政面に対する先見の目が弱く、結果的に朝廷・公家・貴族に操られた部分が多々ある。すなわち、

◇自我心が強く兄頼朝が目論む鎌倉幕府樹立の妨げとなった。

◇行動面からは武闘派に属する。

合戦能力は奇策ゲリラ戦法を得意とし常識破りの発想者。

◇それが証拠に明け方の攻撃と夜襲戦法を得意としている。

◇元来当時の合戦では海上戦で漕ぎ手を射殺す、また騎馬戦で馬を狙って弓矢を放つということは武士道にあるまじきこととして常識だったそう。

義経伝説はとにかく不明なところが多く、かつ数奇な運命にもあそばれているため、その生涯はかっこうの英雄伝説として物語化されている。そして脚色化が進み、浄瑠璃、歌舞伎に至っては創作の世界に入っているのが現実で、本当のことを子々孫々までに知らせることが必要であろうと痛感し、講師の史跡保存に対する強い思いと行動に共感させられた講義でありました。

## 専門講座だより

### 情報学科

情報学科は、三木市高齢者大学で学ぶ1年生のみが受講できる専門講座である。現在10名が受講している。初心者でもパソコンを操作できる楽しい講座であり、その受講風景の一端を紹介する。椅子に座る前にすることは沢山ある、カーテンを引く、プロジェクター、パソコンのコンセント、出席簿も用意と本当に忙しい。

この教室のスターは藤田先生。なにしろ、パソコンを触ったことのない人が多いので、生徒から声が掛かること度々、先生から声を掛けないと、生徒はどうしていいのかわからないので、いつまでもパソコンと睨めっこ。

WindowsのOSは7と8ではスタート画面から大違い。「これが7で、これが8」と、スクリーンに画面をきりかえて説明。その上厄介なことに、パソコンは使用者の言うことを聞いてくれない時もある。電源を切るのに苦労して選んでクリックしたのに、自分勝手にファイルをバックアップする。アレアレどうしよう。そんな時にも先生は冷静に対処してくださいませ。

もう1年受けようかなという声が出る有意義な講座である。



1年5班 小阪 信之

## 学年通信(3年生)

### 恒例の新年会！！

今年で3回目の新年会は、所を変えて1月15日に加古川市の「割烹寿司 塩谷」にて行い、40名の参加がありました。毎年恒例となり1年生よりも2年生、3年生となるにつれて盛り上がってきたように思われます。

幹事による周到な準備のもと、岩波副会長の挨拶に続いて吉田総務の乾杯で始まるやいなや料理を味わうこともないほど周りとの会話が弾んでいました。

「年末・年始をどうすごした」「新年を迎えても若い時と違ってあまりおめでたいこともないな」「寒さがきびしく風邪をひいて大変だった」「4年生の一大イベントである卒業旅行を楽しみにしている」など、ありきたりの会話内容のようですが、少しアルコールも入り、お互いの生活ぶりを話し合うことにより絆の糸が回を重ねることにより太くなってきたのではないのでしょうか。

席順も班別ではなく、くじ引きなので普段あまり話をする機会の少ない人とも絆が広がり、最終学年に繋がる盛り上がりでした。

帰りには半分の人が場所を移動してカラオケに興じ、それぞれ無事に帰宅しました。



3年4班 三木 清

## クラブ紹介

### 匠クラブ

匠クラブは、創部2年目のクラブです。

部員は23名で、男性11名、女性12名です。

活動は毎週木曜日、木工室、9時～12時と12時～16時の2班に別れて作業をしています。

匠は辞書によりますと職人さん、大工さん、細工師とのことです。私たち匠クラブは気楽な日曜大工のお兄さん、お姉さんの様なもので、垢抜けした物を作る集まりです。自分の作りたい作品を、自由に作ります。

年末には、まなびの郷みずほの門松を製作し、各家庭の玄関飾りも作り、なかなかの好評でした。女性も男性も、同じ物を全員で助け合い、和気あいあい、楽しみながら作品作りをするクラブです。

興味のある方、気軽にお立ち寄り下さい。

匠クラブ部長 4年5班 米村 博志





## 水墨画クラブ

水墨画クラブは在校生OB合わせて37名です。練習日は毎週水曜日の10時から12時までの短時間ですが、集中して有意義に励んでいます。

水墨画は、墨一色の濃淡により、遠近感や美しさを自由自在に無限大に表現することができます。しかし、時には顔彩を取り入れ、花や鳥、風景等水彩の様な美しさも表現出来ます。

入部時は、この様に墨で表現出来るのかと、心配するがやはり練習が大切です。目で良く読み、自分なりの筆で書いた絵は、他の人達が評価してくれます。上手に書かなくても、個性を生かし、自分なりの水墨画を楽しんだら良いのでは。現在二人の先生から2班に分かれて指導を受けています。

年間行事として、自分達の作品を観賞してもらう展示会を、みっきいホール・まなびの郷みずほ（大学祭）・緑が丘町公民館等で開催し、好評を得ています。

最初から上手な人はいません。自信を持ちましょう。さらに新たな仲間を迎えた歓迎会、野外での写生会、懇親会等全員なごやかに楽しんでいます。

ぜひ一度、教室に来てみて下さい。

水墨画クラブ副部長 2年2班 浜渕 徹



## 茶道クラブ

茶道とは「もてなし」「しつらい」の二言で語られるのではないのでしょうか。

亭主となった人は、庭園、茶碗、釜、掛物等のもてなしの準備をします。これらは、日本の風土が育ててきたものではないのでしょうか。

千利休の七則には

茶は服のよきように点て  
炭は湯の沸くように置き  
冬は暖かく夏は涼しく  
花は野にあるように入れ  
刻限は早めに  
降らずとも雨具の用意  
相客に心せよ



と他人に接する心構えがあります。

また、掛け軸に「喫茶去」という言葉がありますが、「去」の字は「喫茶」の強調の助辞であり、「どうぞお茶でも召し上がれ」という気軽にお茶を飲むことを日常に生かすことをいいます。私たちは、年数回の催しを行い、他の茶会にも出席して、お茶を楽しんでいます。

昨今は、大学祭のお茶席を一年の総仕上げとしてお点前の練習に励んでいます。

皆様も、茶道をなさいませんか。部員一同、心よりお待ちしております。

茶道クラブ部長 3年2班 石井 美夜子

自治会新聞は、三木市高齢者大学ホームページ【<http://koureisyadaigaku.cccp.jp>】からご覧いただけます。